

## ステップ・バイ・ステップ方式を用いた初学者向け建築設計教育 プログラムの実践と教科書の出版

正会員 川 北 健 雄 君  
正会員 花 田 佳 明 君  
正会員 三 上 晴 久 君  
正会員 倉 知 徹 君  
正会員 水 島 あかね 君

建築設計教育は、担当教員の人間性と、学生の主体性に拠るところが大きいですが、最近では設計に情熱を懸ける学生が減ってきているように感じられる。そのため、設計を進めていく術を自ら獲得できない学生は、設計嫌い～建築嫌いにつながることも多く、教える側と教わる側の建築に対する意識の違いも大きくなってきているのではないだろうか。このような状況においてすべての学生が落ちこぼれることなく一定の設計能力を獲得させる教育プログラムの必要性は極めて高い。

本業績は、初学者向けの建築設計教育プログラムで、基本設計段階で行われる敷地調査からプレゼンテーションまでのプロセスを 6 段階のステップに区分し、それぞれのステップにおける作業内容を明確に示し、この「ステップ・バイ・ステップ方式」により誰もが戸惑うことなく設計に必要な能力を習得できるようにしたものである。このプログラムは、神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科で 1994 年から実践され、2010 年には、その成果が教科書として出版されている。

本教育プログラムは、各ステップの授業が 1 週間に 2 回計 5 コマで全体で約 2 か月で構成される。各ステップでは、単にその週の小課題を説明するだけではなく、その作業に必要な道具と技術と知識を掲載した資料等を用い、講義形式で具体的に教えられている。

本教育プログラムの教育効果としては、短期間で一通りの設計の手順を習得させることが可能になったことによるボトムアップと同時に全体のレベルアップと習熟度の向上にも効果があったこと、各段階に必要な知識を講義や資料によって提供でき、複数の教員による指導においても作業目的が共有されるのでグループ別の個別指導でもチームワークによって対応することが可能になったこと、担当教員の交代があっても共通理解に基づいた一定水準の教育内容が維持できること、が挙げられている。

本業績として出版された教科書は、6つのステップに沿った構成で、ステップごとに検討すべき事項とそのステップにおける学習目標と作業手順が明示されている。各ステップにおける作業内容の解説では、設計課題をこなすための基礎知識が網羅されており、建築設計を独学で身に付ける場合にも役立てられる。また、設計課題に対する解決案の多様性を設計プロセスにおける変化とともに示している点にも特徴がある。すでに複数の大学や専門学校で教科書として採用され、社会貢献度も高く評価されるものである。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。